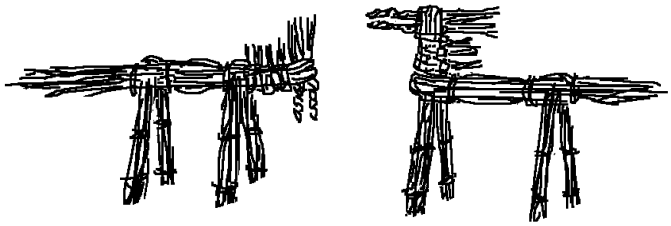
ちがや馬

練馬、板橋一帯に古くから伝わる七夕行事として、「ちがや」で馬を作って飾る風習があった。ちがやは荒川沿いの河原等に広く群生していたこともあり、入手はたやすかったと考えられる。また、ちがやには魔除けの力があるとされており、現在でも夏越しの祓えに「茅の輪くぐり」を行うところもあるが、当所では七夕行事としてちがや馬を作って、農作物の豊作や無病息災を星に祈願する風習があった。

弁天宮の七夕星祭り（八月六、七日）では、当時のちがや馬を再現し、神前に飾っています。ちがや馬の大きな特徴は、雌雄一対の馬を作って飾ったところであり、こうした例は他には少ないものである。尚、「ちがや馬飾り」は練馬区の無形民俗文化財（第七十号）として登録されている。



藁馬を作る風習は各地にあるが、特に関東地方（千葉、茨城・埼玉の一部）では真菰（まこも）を使って馬を作るものがある。

藁馬の風習例：
潮来の真菰馬（茨城）、真菰馬（千葉）、深大寺赤駒（東京）、信州藁馬－駒曳の馬－、桐原の藁馬（長野）

ちがや【茅】（茅萱、白茅）　*Imperata cylindrica* var. *koenigii*

チガヤの「チ」は千の意味で、草が群れを成して生える様子を表現したものと思われる。日本では本州、四国、九州等各地に見られる。日当たりの良い山野の他、海浜、河原や土手に群生する。イネ科の多年草で、高さ 30～80cm になる。

5 から 6 月頃、葉に先立ち銀白色の毛でおおわれた円錐状の花穂を出す。これを茅花（ツバナ）といって、甘味があって若い花序を噛んで楽しんだりする。

花穂は詰め物に使用したり、火口用に利用したりした。根茎を乾燥したものを漢方で茅根（ぼうこん）といって、利尿、発汗、止血の効果があるとされる。

チガヤには呪力や魔除けの力があるといわれる。6 月晦日、夏越しの祓えに神社の境内にチガヤで編んだ大きな輪をつくって、これをくぐることで祓えの儀とした「茅の輪くぐり」の風習は現在も広く行われている。摂津の住吉大社の夏越大祓や大和の大神神社の御祓（おんぱら）祭では、茅の輪をくぐる神事を行っている。

参考文献：
野草大図鑑（北隆館）、花と樹の大事典（柏書房）、日本野性植物館（小学館）
日本郷土玩具事典（岩崎美術社）、日本の祭りと大嘗祭（朱鷺書房）

弁天宮 宮司　　新井　司

〒179　**東京都練馬区北町** 1-39-17
TEL:　03 - 3932 – 0167